

5-7 相良観測点における歪・傾斜観測 (2003年8月~2003年10月)

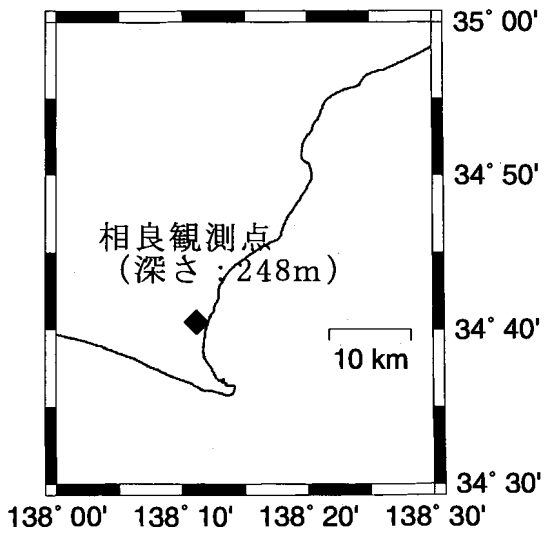
Continuous strain and tilt observation at Sagara station in the period from August 2003 to October 2003

東京大学地震研究所
地震地殻変動観測センター
Earthquake Observation Center
Earthquake Research Institute
the University of Tokyo

前報¹⁾と同様に相良観測点において観測された歪・傾斜変化を報告する。第1図に相良観測点の位置を示す。第2図に2003年8月1日から2003年11月11日までの時間値を、第3図に観測開始から2003年11月11日までの日平均値を示す。傾斜計N291Eup成分に2000年の冬ころからN291Eup方向への変化が認められる。しかし、春にはもとに戻っている。原因は不明である。第4図にはベクトル傾動図を示す。傾動ベクトルは御前崎の方向が沈降であることを示しており、定性的には水準測量で得られている森町(5268)を基準として浜岡町(2595)が沈降していることと矛盾しない。

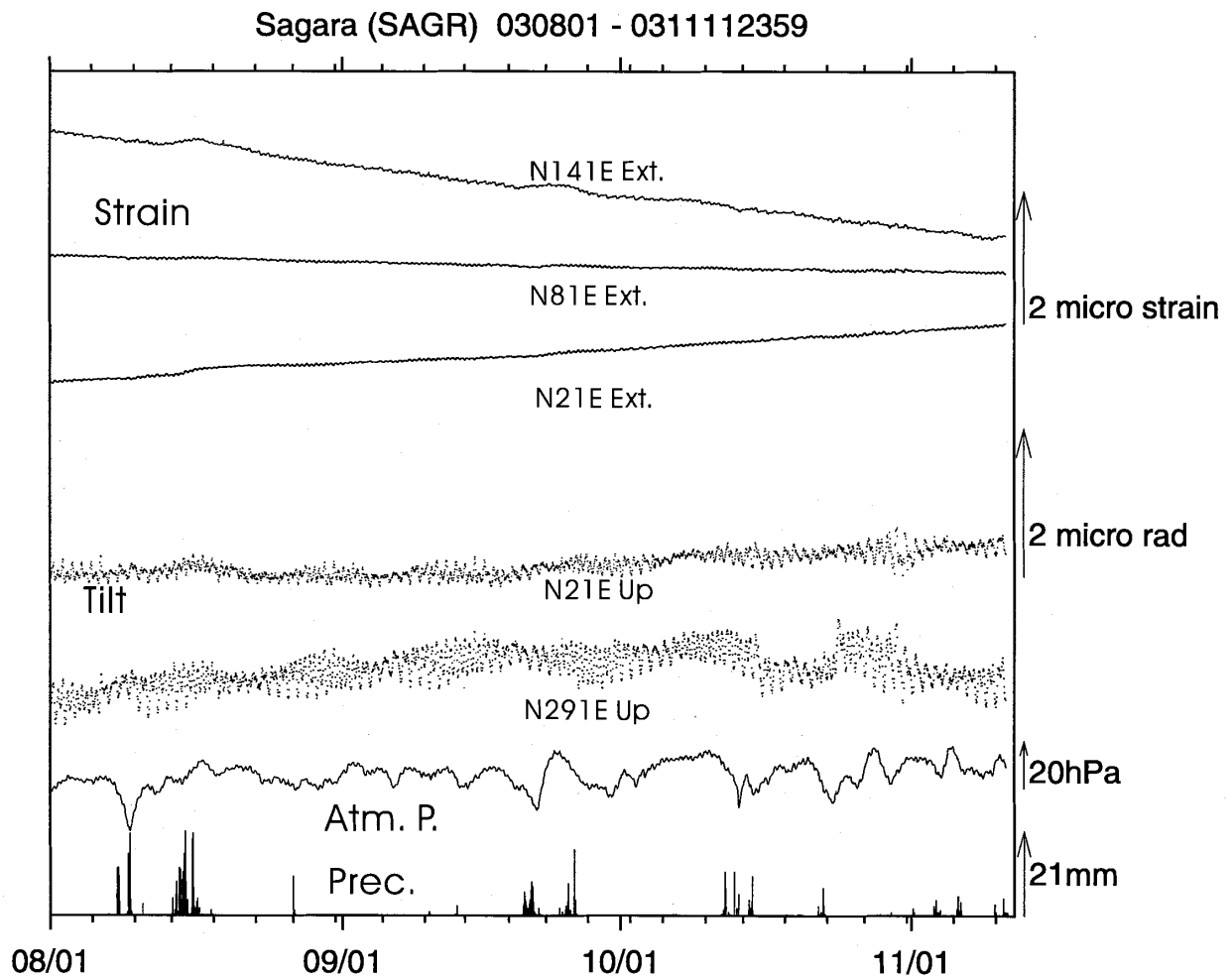
参 考 文 献

- 1) 東京大学地震研究所, 相良観測点における歪・傾斜観測 (1995年10月~2001年10月), 連絡会報 67 (2002), 333-336.



第1図 相良観測点位置図.

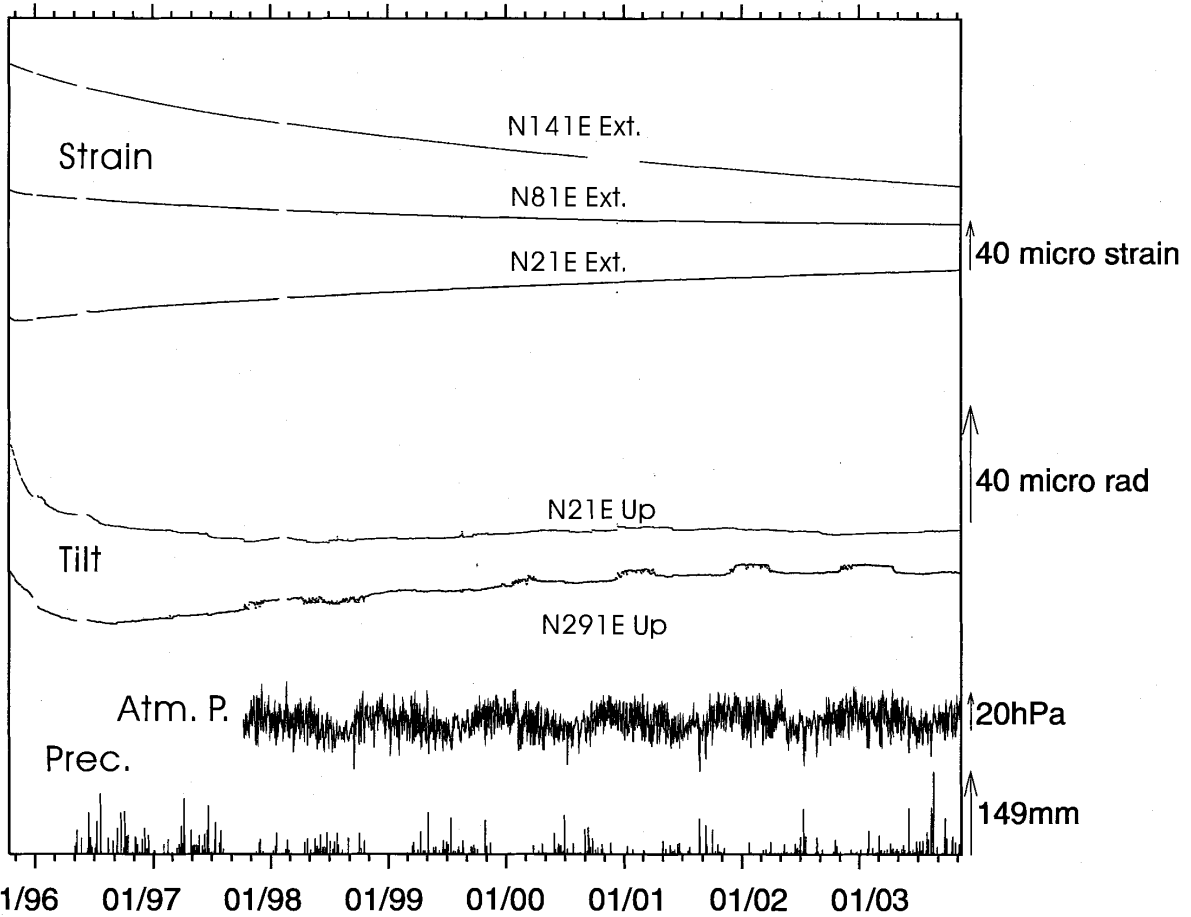
Fig.1 Location map of Sagara station.



第2図 2003年8月1日から2003年11月11日までの歪, 傾斜, 気圧変化, 降雨量の1時間値.

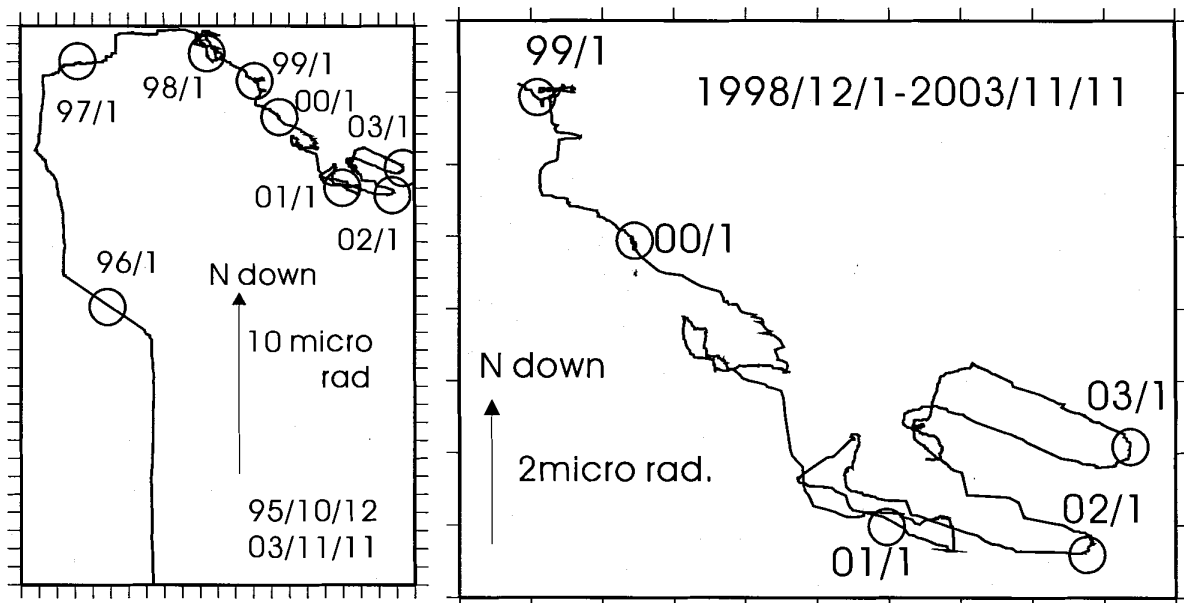
Fig.2 Hourly data of strain, tilt, atmospheric pressure change observed by the multi-component borehole instrument and hourly precipitation in the period from August 2003 to October 2003.

Sagara (SAGR) 951012 - 0311122359



第3図 1995年10月12日から2003年11月11日までの歪，傾斜，気圧変化の日平均値．降雨量は日積算値．

Fig.3 Daily average of strain, tilt, atmospheric pressure change observed by the multi-component borehole instrument and daily precipitation in the period from October 1995 to October 2003.



第4図 傾斜ベクトル．左：1995年10月～2003年11月11日．右：1998年12月1日～2003年11月11日．

Fig.4 Tilting vector from October 1995 to October 2003 (Left) and from January 1999 to October 2003 (Right).